

## EN50128 を順守することは Bugzilla 系列プログラムを用いて制御性能要求を変える

原題: *Respecting EN50128 change control requirements using Bugzilla variants*

著者・所属: Maarten Duhoux; インフラ部プロジェクト技師, Infrabel, ベルギー  
誌名: SIGNAL+DRAHT Vol.102 No.7+8 (2010-8) p30-33  
言語: 独語 原文中図: 2 表: 0

全ての信号処理活動は今日、性能要求段階から最後の廃棄までの全ライフサイクルにわたって完全に記述されねばならない。もっと具体的にいえば、ソフトウェアの開発過程は提案されている prEN50128:2009 規準「修正と変更制御」の6.6節の要求に公式的には従うことになる。本記事ではソースが公開されている、ソフトウェア開発を管理するために設計された BUGZILLA がこの新条項のいくつかの要求に従うことをどのようにして助けることができるかを記述する。2002年2月以来、本ツールは一般的あるいは特定のシステムのライフサイクルにわたる規準順守または製品の妥当性を証明するのに、Infrabel の信号部のプロジェクトリーダーやシステムエンジニアを助けてきた。そのツールは部の ISO9001 品質保証の適用の道具としても確かめられた。

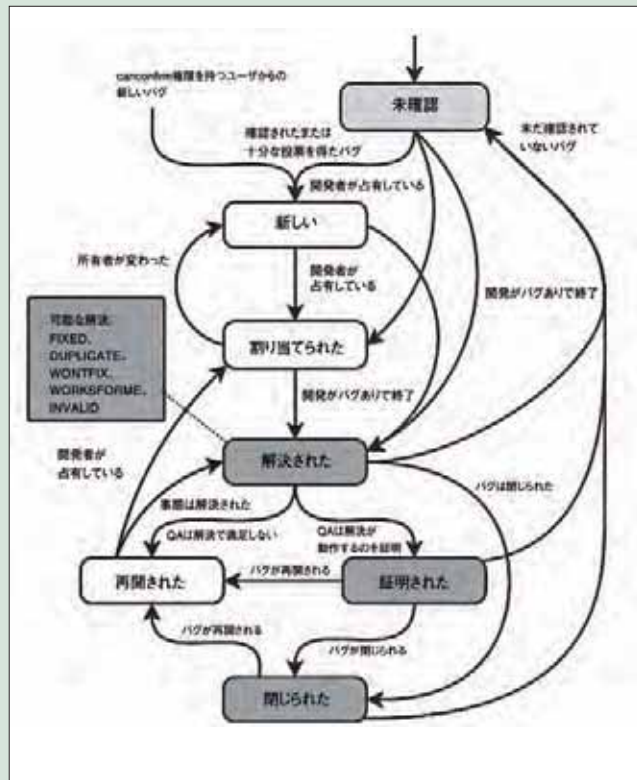


図1 Bugzilla のバグのライフサイクル

出典: SD

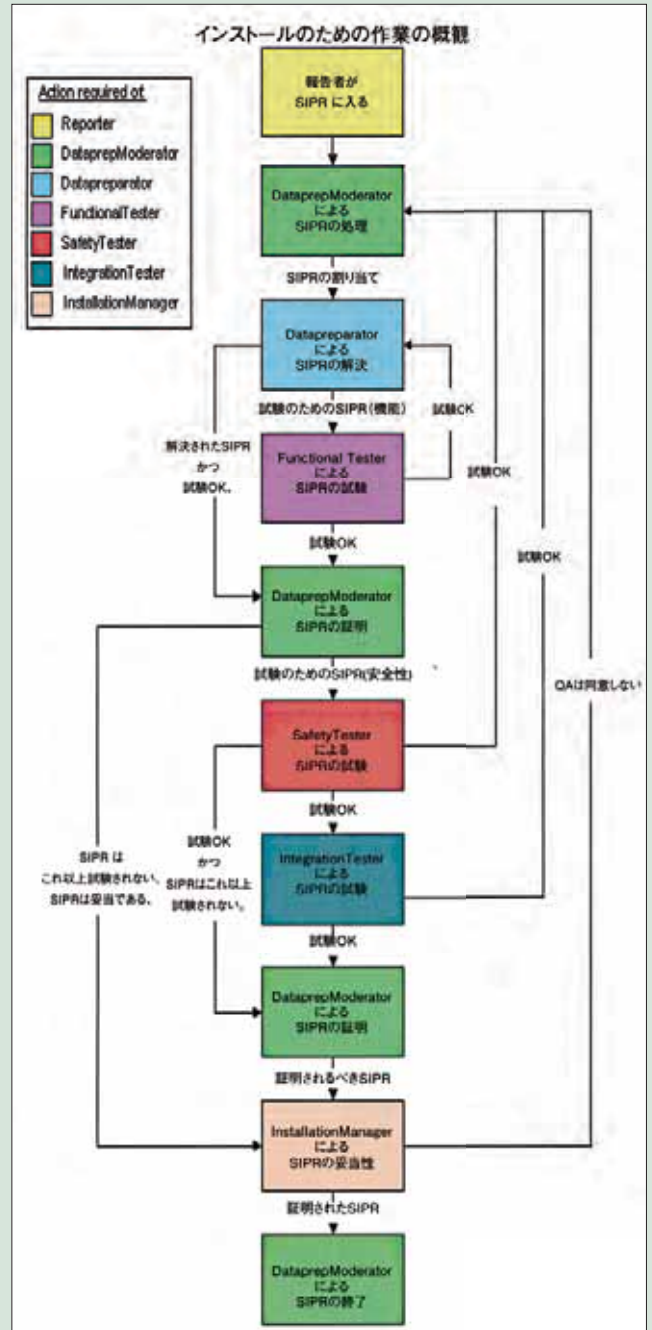


図2 EN50128 に合致した、Bugzilla を用いた SIPR の処理

出典: SD